



学校だより

Jobu Junior high school

信頼を築く学校

茅野市立

東部中学校

令和6年度 文責 濱 喜一郎

発行日 4月 5日(金)

令和6年度の重点

こう とう 幸 動

～ひろげよう つながろう ふかめよう～
自分から ・ 凡事徹底 ・ 利他心

一学期始業式 校長講話（概要）

一年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。二、三年生の皆さんにとっても今日は新しい学年にそれぞれ進んだ新しい出発の日です。その出発にあたり、今年度大切にしたいことをお伝えします。

「行動」は、動くこと、言葉を発することなど、何かをすることを指す言葉です。「考動」は、何のために行動するのかを考え、行動することの意味を自分でしっかり理解し、人がやっているからとか言われたからとかではなく、自分で考え行動することを指します。「幸動」は、この「考動」の目的である「自分、そしてみんなの幸せ」ということを目的として「考動」することを意味します。昨年度からの継続で、今年度もこの「幸動」を今年度の重点とします。そしてこの「幸動」に「ひろげよう」「つながろう」「ふかめよう」という言葉を加えます。「ひろげよう」は自分だけの幸せ、限られた数名の自分たちだけの幸せということではなく、幸せをさらに広げられるように「幸動」していこうということです。「つながろう」は「幸動」し、いろいろな人とさらにつながっていこうということ、「ふかめよう」は様々な関係をさらに深いものにしていこうということです。これはそのまま、自分の興味関心を広げ、様々な人、もの、こととつながり、自分自身を深めていこうという意味にもなります。

そして、さらに「自分から」「凡事徹底」「利他心」ということを生活の中で大切にしていこうと考えました。「自分から」は「主体的」ということです。人に言われるからとかではなく「自分で考え、自分から」「幸動」することです。「凡事徹底」は四字熟語ですが「凡事」、目の前にある当たり前のことを「徹底」する、やりきる、継続するということです。やってみると分かりますが、これは実に大変なことです。だからこそ価値があります。そして、このことが毎日の生活の基礎となります。「利他心」は和語にすると「自分は誰かのために何かできることはないか」と考えて「幸動」することになります。これらのことは例えばあいさつ一つとっても、あいさつを待つのではなく、自分から相手のことを考えあいさつをする。そのあいさつ一つで気持ちが温かい幸せなものになる、そんなちょっとした「幸動」が生み出す「幸せ」を毎日の生活の中で大切に考えていこうということです。

みなさん一人ひとは、世界に一つのかげがえのない存在です。そんな自分を精一杯大切にしてください。同時に世界に一つしかない「仲間」の命も精一杯大切にしてください。そして、存在の大切さは、同じですが、その一つ一つはみんな違うのです。同じものはありません。ですから、一緒に生活していく価値があり、お互いに影響し合い、成長し合えるし、楽しいのです。

「同じでない」ことを 受け入れ 認め 楽しむ

をお互いに大切に毎日の生活を送っていきましょう。困ったこと心配なことあったら、担任の先生はもとより、だれでも相談しやすい先生に声を掛けてください。校長室に来てくれてもいいですよ。

今日が新しい出発です。いよいよ今年度が始まります。一緒に頑張っていきましょう。

